

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

2021/12/17

りそなホールディングス 市場企画部

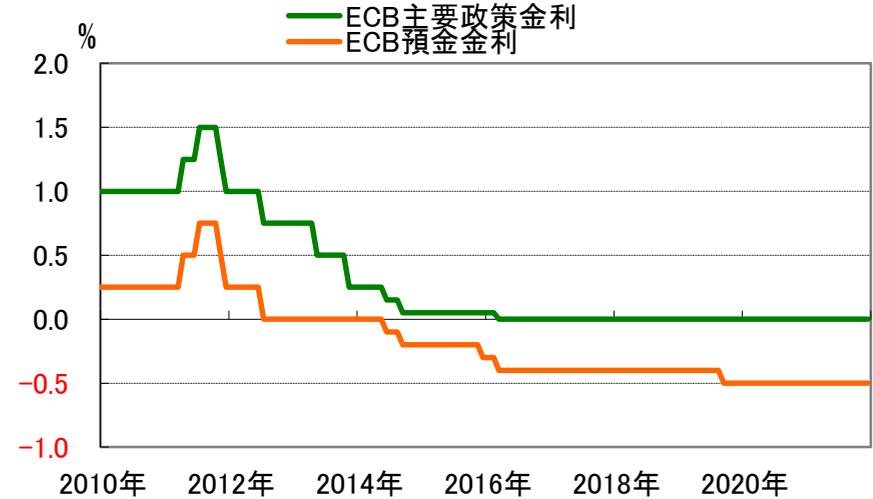


○概況

- ◆ ECB理事会ではPEPPの来年3月末終了後、APPを増額も来年10月にかけて漸減させる方向性を示した
- ◆ 主要政策金利は据え置きとなった
- ◆ 事前にイングランド銀行が市場予想に反して利上げをしたこともあり、ECB理事会での金融市場の反応は限定的

- ✓ 12月16日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、中銀預金金利は▲0.50%、主要リファイナンス金利は0.00%、中銀貸出金利は0.25%で据え置いた。
- ✓ 今回**パンデミック緊急資産購入プログラム(PEPP)について、来年の第一四半期は今四半期よりも減額、新規購入については22年3月末で終了**とした。**以降は通常の資産購入プログラムであるAPPを増額するも、来年10月にかけて徐々に買入額を漸減させる方向性を示した。またPEPPで購入した資産の再投資を少なくとも2024年末まで1年延長、必要に応じて買入再開も可能とした。**TLTRO-Ⅲ（条件付き長期リファイナンスオペ）の規模及び期間については維持された。
- ✓ フォワードガイダンス（将来の金融政策方針）については、「（1）インフレ率が予測期間（現在は21-23年）の終わりよりもかなり前に2%に達し、（2）残りの予測期間は持続的に2%に達すると予想するまで、（3）また基調的なインフレ率が中期的な2%の物価安定と一致するよう十分に進展していると判断するまで、現状ないし現状を下回るレベルで政策金利を維持する」との文言が据え置かれた。
- ✓ ラガルド総裁は記者会見でオミクロン株の不確実性はあるものの、力強い回復が見られる中、柔軟性は残しつつも徐々に正常化に向かう良いタイミングであるとした。インフレについては短期的に高止まりするだろうが、来年には緩和するとのスタンスを変えず。また利上げについては「2022年中に利上げをする公算は小さい」とした。
- ✓ ECBの政策発表前にイングランド銀行が市場予想に反し利上げを行っており、今回のECBはタカ派的な内容となったものの、影響は限定的であった。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（12月時点）】

	2021年	2022年	2023年	2024年
実質GDP成長率	+5.1	+4.2	+2.9	+1.6
9月時点の見通し	+5.0	+4.6	+2.1	-
HICP(消費者物価)	+2.6	+3.2	+1.8	+1.8
9月時点の見通し	+2.2	+1.7	+1.5	-

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。